

第2号様式（第12条関係）

令和4年度第5回大和市街づくり推進会議 会議要旨

- 1 日時 令和5年2月24日（金）
- 2 場所 書面開催
- 3 出席者 10名
- 4 傍聴人数 書面開催のため傍聴なし
- 5 議題
 - （1）都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価について
 - （2）次回の大和市街づくり賞開催に向けて
- 6 その他

会議資料

- ① 次第
- ② 資料1 都市再生整備計画 事後評価シート 中央林間地区
- ③ 資料2 次回の大和市街づくり賞開催に向けて

■令和4年度 第5回 大和市街づくり推進会議 会議録■

[会議名称] 令和4年度 第5回 大和市街づくり推進会議

[開催日時] 令和5年2月24日(金)

[開催場所] 書面開催

[出席委員] 10名(欠席:1名)

[出席] 杉崎 和久/ホーテス シュテファン/三浦 由理/河村 奨/

江村 郁子/大峰 英一/星野 澄佳/山田 俊明/須賀 良二/平田 章

[欠席] 黒石 いずみ

[事務局] 街づくり施設部 街づくり総務課街づくり調査係、街づくり推進課街づくり推進係

[担当課] 街づくり施設部 街づくり推進課 TEL.046-260-5483

[傍聴者] 書面開催のため傍聴なし

[公開の状況] 公開

I. 会議次第

1. 議題

- (1)都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価について
- (2)次回の街づくり賞開催に向けて

II. 会議要旨

1. 議題

- (1)都市再生整備計画
- (2)次回の街づくり賞開催に向けて

質疑応答(○…委員 ▼…市)

-
- (1)都市再生整備計画 中央林間地区 事後評価について

- 1.「都市再生整備計画(中央林間地区)事後評価書」国へ提出について

承認10名、否認0名

【意見等】

- 添付様式6「当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方」の「要因分析」にある「…新たな指標…」に関して、街づくり推進会議において議論をしても良いのではないかと。
- ▼ 次期計画等、新たな計画の策定の際には、指標の設定方法を含めて検討する。
- 中央林間駅利用者数にこだわっているが、今後郊外部において多様なモビリティが展開されることを想定した時それほど駅利用者数にこだわらなくても良いのではないかと。
- ▼ 地区の人口推計の影響を受ける中央林間駅利用者数は、現計画を評価する指標として新型コロナウイルスの影響を受けてしまった点を除いては、適切であったと考える。

- 駅利用者数がコロナの影響で下がってしまったのが残念だが、全国平均や小田急の他統計がもしあれば、比較的良好だったのか。あるいは横ばいだったかの検証ができそうである。
- ▼ 乗車人員平均について、平成26年度を基準に令和3年度の割合を算出すると、中央林間駅は、市内全駅の平均と比較し、ほぼ同様の減少率となっている。
- コロナの影響もあり正確な数値が出ていないと感じる。今後の経過も評価できると良い。
- ▼ 今後も継続して統計を取りながら、経過を注視していく。
- 添付様式5-③今後のまちづくり方策に関する意見について、以下のことを想定される事業としてはどうか。
子どもを対象とした本の読み聞かせの実施(ポラリスの会議室等を利用、中央林間図書館の蔵書から子供向けの本を借り出す、地域のボランティアを募る、まずは月1回など)
- ▼ ご提案頂いた事業について、関係各課に伝える。
- 次の2点において、別に説明があるか、或いは簡潔に具体がみえるような文言があると尚よさそうである。①「多世代が交流し」という点について、どのように交流できているのか。②定住意向についての調査について、(a)どのように表現されたのか、(b)経過、(c)整備が意向にどのように反映したのか、(d)割合評価の解釈をどのように行ったのか。
- ▼ ①市民交流拠点ポラリスでは、高齢の方が中心に開催する読み聞かせや人形劇など、サークル活動があり、主催者と参加した親子が交流する様子がみられる。また、アリーナを個人で利用する方の中には、同じ時間に居合わせた一般の方と子どもたちが混ざってバドミントンを楽しむ光景が見受けられる。②(a)添付様式2-①「都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況」でデータの計測手法について記載している。なお、調査での表現は、次の通りである。
【設問】「あなたは、これからも大和市内に住み続けたいですか。(○印は1つ)」
【選択肢】(選択肢1)ずっと住み続けるつもり、(選択肢2)10年以上は住むつもり、(選択肢3)5年～9年間は住むつもり、(選択肢4)5年以内に転出したい、(選択肢5)わからない
(b)【経過】平成26年(54.1%)、平成28年(61.3%)、令和元年(67.0%)、令和3年(64.9%)
(c)添付様式4-②「数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理」の総合所見に記載している。
(d)市民意識調査において、継続して定量的に調査を行っており、市民の意見が反映されているものとする。)
- 「評価委員会の審議」のその他の欄には「中高生」と示されているが、事後評価シート他の欄に「学生」となっている。地域の人が活用していることを伝える表現とは何かと考える。
- ▼ 事後評価シート他の欄での「学生」は、小学生から大学生まで、広く学校に通い学んでいる方を表現することを意図しています。他方、「評価委員会の審議」のその他の欄の「中高生」は、評価委員会(街づくり推進会議)の委員の方より、ご発言頂きましたご意見について、表現を変えずに記載を行っているため「中高生」としている。

(2) 次回の街づくり賞開催に向けて

2-1 第21回街づくり賞を振り返って

◆第21回開催概要について

【意見】

- 事務局のみなさんの周知活動によって、市内の多種多様なたくさんの居場所の応募があつて良かった。市内のたくさんの居場所を把握することができたので、表彰された事例だけでなく、多くの市民に知ってもらふような発信をしたい。
- 応募してくれた方の属性を基に、今回十分に関わらなかった社会的グループについて確認し、今後どのような情報をどのように提供すれば、関わっていただけるか、検討すれば良いのではないかと思う。
- 今回「居場所」をテーマにしたことはおもしろかった。抽象的ではあるが非常に重要な空間的意味をもつこのテーマについてあまり掘り下げて議論できなかつたことが残念である。
- 応募作品は場所に偏っている印象があつた。多くの応募があり、広く募集できたのではないか。次回時間を空けて同様のテーマで募集したら、また違う意味合いの居場所が出てくるかもしれない。
- 市民への周知・認識度が上がれば、もっと良い活動になるので、次年度の広報も考えていけたら良いのではないか。
- 期間やテーマは良かった。広報関係については、いつも議論になるが、対象や方法等については悩む。今回はどこを対象に積極的に広報したのか、委員としてあまり理解してないので申し訳ないが、何をどう改善したらいいのか、意見が出せない。しかし、結果として応募件数がかなりあつたので良かった。
- 募集テーマの設定は応募を増やすうえで重要であり、特に「居場所」というキャッチーなキーワードを使ったことは、市民のみなさんの関心と呼んだと思われ良かった。ただ、「居場所」というキーワードだけに囚われて応募したものと推察される応募も見受けられ、そこはご当人にとって居場所であることは確かかもしれないが、街づくりとして何を評価してよいのか評価に困つた。キャッチーなキーワードを使いつつも、それを補足する言葉を付加するなどして、そのような応募にならないような募集テーマを設定すべきであると思つている。
- 募集期間の長さやテーマ、ご担当の方が力を尽くしてくださった広報等、高く評価できる。
- 営業PRと紛らわしいものが気になつた。

◆選定方法について

【意見】

- 現地を巡り、話を聴くことができたのはよかった。現実的にこれ以上の現地を見ることはできないので、今回くらいに絞り込むのは仕方ない。
- 最終審査方法については、ある程度制約があるなかで実施しなければならないということはあるが、何となく評価軸がそれぞれの委員の中で異なつていたのではないかと感じ、もう少し議論すべきだつたのではないかと思つている。
- 事務局のまとめは大変すばらしく分かり易かつた。ただ、相当な労力をかけていると思うので、プレゼンテーション(or 動画)などを参加者に任せる、あるいは、高校生・大学生などを巻き込むことも有効ではないか。その過程を交流の機会とすることもできる。
- 実際に現地の話を聞けるのは良かった。事務局の資料もわかりやすかつた。

- 現地調査時の滞在時間、現地調査件数については良かった。事務局からの説明内容は良かった。事前に現地訪問等を実施し、具体的に理解可能なように資料がまとめられていたように受け止めた。
- 一次選定のとき、自分の評価はかなり高いのに、他の方は低いということがあったが、その違いがどのような理由によるものか、意見交換をする時間が取れたら良かった。最終選定されたものはどれも選定に値するものだったが、そういう所を突き止めないままにした最終選定されなかったものに思いが残った。今回の現地調査は全体的に妥当であった。現地調査からは書面では把握できないもの、思いや情熱が伝わって来て、現地調査後どれも評価がアップした。そういうことからして、件数に限度はあるものの、現地調査は可能な限り多い方がよい。
- 流れ等において、コロナ禍ということもあり、ほぼ適切であったと感じる。これまでも「評価」について、何度か議論になったのではないかと思う。エントリーしてくださった方の表現によって、評価に影響があり、あらかじめ示して頂く項目があると、賞の評価として適切なものに近づきそうである。SDGs の認識が委員の中でも差異があり(それはある程度許容されるものと思うが)認識確認等の勉強会があると、尚良いかと考える。(県の発信しているもの等使えたら…)

2-2 次回の街づくり賞について

◆開催スケジュール(案)について

【意見】

- 周知期間は今回程度でいいのではないか
- 募集期間というよりも募集方法である。どこに知らせるかといったことをもう少し考えた方がよいかもしれない。
- 〆切から表彰式までが非常に長い(約 6 か月)ので、短くできないものかと思う。あるいは、待たせるのであれば中間的なイベントを参加者向けにはさむ等の工夫があってもよいかもしれない。年内くらいで表彰が終わると、例えば受験時の自己アピールに使える、といったタイミング的なメリットもある。
- 募集期間は長くした方がよい。また、若年層を取り入れるためにも、夏休み期間等をはさむこともよいのではないか。
- 次回も概ね同様のスケジュールにて計画して良いと考える。
- 募集期間を単に長くすることにあまり意味はなく、その間にどれだけ繰り返し、様々な手段で広範に募集を伝えられるかが重要であり、それによりいかに応募件数を増やすことができるかである。
- 長すぎると忘れてしまう心配もあるが、応募数が増えるのなら良い。

◆募集テーマについて

【意見】

- 募集テーマについては、ある程度のパターンを決めて、サイクルで実施するのが良い。毎回ゼロベースで議論をするのは時間がかかるし、同じテーマをサイクルで行うことにより変化を把握することができて良いと思う。
- テーマを SDGs との関連で考えることができるかもしれない。あまり複雑ではない方がよいということも大事だと思うが、持続可能性の環境・社会・経済の側面を包括的に捉えることを促進することができれば良いのではないかと思う。「多様性」を検討してみてもよいかもしれない。

- 評価軸をどうするかが問題ではあるが「美しいと思う風景」「100年後の大和市にも残したい街並、景色、樹木、施設？」といったことを募集してはどうか。
- 間口がひろまったのは大変良かったところだ。ただ、一律の評価軸で判断するのが難しかった。30 秒程度の動画で応募してもらえると多数を見るにはありがたい。従来通りの応募の後に、動画作成のレクチャを開催して、応募者間の交流のチャンスをもうける等の手もある。
- 文字通りの場所に偏っているように思えた。推進会議の位置づけ上、場所になる方が評価しやすい部分はあるが、心の居場所のような意味合いのものも該当するのではないか。
- <<テーマ>>市内の映え風景・スポットを教えてください
 - <<具体的な内容>>
 - ・市内を歩いていて、この風景が「映える」と思う風景やスポットを市民の方から応募していただく
 - ・前提としてSNS等で発信していないものに限定する
 - ・個人情報が特定されるような内容は受け付けない
 - <<課題>>
 - ・具体的にどうやって受け付けるか
 - ・街づくり推進課にメール受付か
 - ・出力したものを受け取るか
- 募集テーマに市民のみなさんを引き付けるキャッチーな言葉を入れることは、応募件数をある程度確保する上で重要である。さらに、キャッチーな言葉だけで漠然としない様に、補足する言葉を付加した募集テーマにした方が良い。
- 募集対象に写真や絵画を加えることは、芸術的要素が入り込み、評価の面だけでも手に負えなくなり、また、街づくりの観点から異質に感じられ、避けるべきと考える。それは、各種の作品展で発表して頂ければ良いのではないか。
- これまでも、市民の気質がみえるもの等や、社会背景とのつながりを感じられることが、選ばれてきた。今後も本質的なテーマで進められたらと思う。
- 募集テーマは無くても良いと思う(幅広い視点から応募があると思うため)。

以上